

2009年7月27日(月)

第一生命経済研究所 経済調査部
副主任エコノミスト 人見 小奈恵

TEL 03-5221-4523

e-mail: hitomis@dlri.dai-ichi-life.co.jp

好調な米企業決算

欧州では、英2009年4-6月期GDPは前年比▲5.6%と1955年の統計開始以来最悪となりました。10-12月期に▲1.8%のマイナス成長に転じてから、1-3月期▲4.9%に次いでマイナス幅は拡大しています。前期比でも▲0.8%と市場予想(同▲0.3%)を大幅に下回りました。08年10-12月期▲1.8%、09年1-3月期▲2.4%と比べると減少幅は縮小していますが、建設業、金融、サービス業などの落ち込みが大きく、厳しい経済状況が再確認されました。一方、独7月Ifo景況感指数は87.3と、3月(82.2)を底に4ヶ月連続の改善となり、景気回復の兆候を示唆する内容でした。米国でも7月ミシガン大学消費者マインド指数は66.0と市場予想(65.0)を上回り、2月以降、4ヶ月連続で前月を上回って推移しています。ただし、前月(71.6)からは低下しており、市場での反応は限定的となりました。欧米ともに消費者心理には改善傾向が見られますが、英GDPに見られるように実体経済は依然として厳しい状況が窺えます。

世界的に株式市場は堅調です。先週1週間で米S&P500は+4.1%、英FT100は+4.2%、日経平均株価は+5.8%、MSCIエマージング株価指数は+5.2%といずれも大幅続伸となり、年初来高値更新が相次ぎました。世界的に株式市場が堅調な背景として、好調な米企業決算があげられます。S&P500指数採用銘柄で先週末までに四半期決算を行なった企業の77%がアナリスト予想平均を上回りました。同指数全体の第2四半期の利益予想は、先週末時点で▲31.0%と前週(▲35.2%)より4.2ポイント改善しています。改善した主な要因は金融セクターの予想を上回る好決算ですが、このことが株式相場に安心感を与えています。

企業業績に敏感に反応する株式相場

海外株高を背景にシカゴ証券取引所における日経平均先物価格が10,035円で引けており、これを受けて、日経平均株価は10,000円台に乗せてのスタートとなりました。大手電機メーカーが上場5社を完全子会社化すると報じられ、当該子会社はいずれもストップ高となりました。同社は以前より社会インフラ事業に集中投資を行いグループ企業の構造改革を行うと表明していましたが、親会社株も堅調でした。好調な米四半期決算を受けて、国内市場では四半期決算発表に対する期待感が高まり、4-6月期業績が黒字転換と週末に報じられた証券大手は大幅高となりました。一方、前場引け後に今期業績見通しの下方修正を行なった海運大手3社は、後場から一転して前日比マイナス圏での推移となりました。海上輸送の需要低迷を背景に3社のうち2社が、黒字予想から赤字予想へ修正しています。業種別騰落率を見ると、上位1位が証券(前日比+3.3%)で、下位1位が海運(同▲3.8%)となっており、企業業績に関する強弱材料がそのまま株価に反映されました。全体的に米企業の好決算や円安進行、業界再編期待などから電気機器や輸送用機器などの外需関連が株式相場を押し上げ、日経平均株価の終値は10088.66円と9日続伸し、6月15日以来の水準まで回復しました。9日続伸は1988年2月以来、21年ぶりのことです。

日米ともに好調な企業業績にポジティブに反応する地合いが続いていますが、出来高にいまひとつ盛り上がり欠ける点が気になります。

以上